資料2

女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告書について

日本医師会男女共同参画委員会
日本医師会女性医師支援センター

調査の概要：病院に勤務する女性医師を対象として、2017 年 2 月～3 月、全病院を通じて調査票を配布した。有効回答者数は 10,373 人（病院勤務女性医師の 25%）であった。

分析の概要：回答者の『属性』について分析した後、『働き方』と、小学生までの子どもがいる人を「子育て中」として、『子育てとの両立』の観点からそれぞれ分析した。あわせて、項目は限られるが、『介護との両立』『女性医師の悩み』についても分析した。

【働き方に関する主な結果】

- 1 週間の実勤務時間 40 時間以内は、時短・非常勤を含めても 3 分の 1 にとどまり、概ね 1 ヶ月の月超過勤務 80-100 時間が 12%、100 時間以上が 13%を占めた。
- 宿日直またはオンコールには 6 割以上が対応していた。29 歳以下は 9 割以上が宿日直またはオンコール有り、30 歳代以降では割合は下がるが、50 歳代でも 5 割を超えていた。診療科によって差異があった。

【子育てとの両立に関する主な結果】

- 子育て中の人は 38%を占め、その 8 割以上が常勤または時短常勤であった。子育て中、夫と同居していない人が 13%あった。育児に夫が「まったく協力しない」は現在子育て中では 5%に対し、子育て経験者では 12%であった。
- 子どもの発熱など緊急時、現在乳幼児子育て中の常勤者では半数近くが休暇をとって対応したが、経験者では 32%、その際の預け先は「親・親族」が最多で、「夫」の 2-3 倍であった。
- 病院からの緊急呼び出しには、現在乳幼児子育て中の常勤者では半数以上が対応しており、その際の預け先は、「夫」が最も多かった。
- 「仕事を続ける上で必要と思う制度や支援策」としては、勤務環境の改善を回答者の 96%が挙げ、次いで子育て支援 88%、復職支援を 38%が挙げた。また、「悩み」について複数回答で訊いたところ、家庭・育児に関する悩みを 71%が、医師としての悩みを 64%が、職場における女性医師としての悩みを 36%が挙げた。

職場の男女共同参画や育児支援への意識は高まっている一方、家庭内ではまだ女性医師だけへの負荷が大きい。出産、育児のみならず、医師業務との両立、キャリア形成確保のための支援も重要である。なお、今回は病院勤務医のみを対象としたが、多様な働き方をしている女性医師の状況も視野に、幅広い選択肢をもつ支援策の展開が望まれる。